



抗腫瘍性脂肪酸によるがん性心筋障害の 予防

國安 弘基

Hiroki Kuniyasu

分子病理学／教授

■キーワード 癌、タイト・ジャンクション蛋白、抗がん剤治療

シーズ概要

がん性心筋障害は癌患者の80%に認められ、がん患者の死因第2位である。中鎖脂肪酸は抗腫瘍効果を有するとともに、グルコース負荷を同時に行うことでミトコンドリアのエネルギー代謝を改善しがん性心筋障害が抑制される。中鎖脂肪酸を用いた栄養介入はがん患者の心筋障害の予防・改善への有効性が期待される。

研究成果の応用可能性

糖質と組合せ摂取を容易に行える経口サプリメントを作製することは応用性が高い。

Appeal Point

アピールポイント

がん治療においてがん性心筋障害の克服は近年大きなテーマになっています。サプリメント開発や臨床試験のパートナーを求めています。

関連文献／特許

1. Nukaga S, Kuniyasu H et al. Cancer Sci 2020.